

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	ニート掘り起こしネットワークと継続的な支援システムの構築及び予防教育と研修の実施		
法人名	社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 名城 政次郎	担当者 連絡先	新井 由夫 098-832-5166

1. 事業の概要

1. ニート掘り起こしネットワークの構築
地域的な実態を把握するためのニートの掘り起こしのためのネットワークの構築。
2. 若年無業者への継続的な自立支援講座の実施
若者自立塾の塾生や沖縄県キャリアセンターの専門相談窓口にくる若年無業者を対象に自立支援講座を実施した。
3. 進路支援講座(予防教育)の実施
沖縄県高等学校生徒就学支援センターや県内の高等学校と連携して進路未決定者への進路支援講座を実施し、ニート(若年無業者)の予備軍を減少させた。
4. 支援者養成講座の実施
若年者に対する自立支援が出来るようにキャリアサポーター養成講座や専門学校及び高等学校の教職員向けの養成講座を実施した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

1. ニートの掘り起こしネットワークの構築については、各行政(教育委員会、雇用対策関連)は必要性と危機感を持っているというレベルでは共通の認識であるが、具体的な協力体制の話に進むと縦割り行政の弊害や個人情報保護の壁にあたり、そこから進まないのが現状である。また、各行政ともニートの現状(数的)把握はあまりされておらず、また、ニートに限った支援策も打たれていない状況であるため、今後は民間レベルでの取組みに期待する以外はない状況である。
2. 継続的な自立支援講座の実施に関しては、昨年度開発したプログラムを基に対象者の特徴に合わせたものに微調整し、継続的に実施した。講座受講前と後のアンケート結果は、自己理解度や就職意欲は数値が上がり、よい結果となった。また、昨年度実施した講座の受講生の追跡調査の結果、半数の参加者が就業している結果となり、講座の有効性が証明できた。
3. ニート(無業者)を増やさないようするための予防教育講座もNPO法人「育て上げ」ネットの協力を得て「金銭基礎教育」の実施など、充実したプログラムを提供できた。受講生や教員の反応も良く、予防講座としては、期待できる。しかし、実施時期の問題など高校現場との連携の強化が今後の課題となっている。また、「親ゼミナール」は、予防教育においてもかなりの重要性を感じられる。親に情報を提供し、親からわが子への支援を行う方法の取組み今後の目標とする。
4. 支援者養成講座については、「キャリア教育担当者研修会」や専修学校教育振興会認定の「CSM(キャリアサポートマインド)講座」及び講師研究会などを通して、支援者の交流を図り、個々のレベルアップと支援者の育成が目標数より達成できた。

②事業により得られた成果

昨年度事業によって構築された講座プログラム(自己理解、仕事理解、コミュニケーションスキル、EQI検査を利用した行動特性からの感情教育、社会人準備講座(ビジネスマナー、就職活動のポイントなど)などを基にワークの種類を増やし、対象者の特徴(就職できない人、就職しても長続きできない人など)に合った幅を持ったカリキュラムの提供ができるようになった。

また、予防講座もNPO法人「育て上げ」ネットの協力で「金銭基礎教育」の実施を中心に金銭的な自立を促し、職業理解を促すワーク(職業カード分類など)を通して、就業意欲や働くことの意味などについて考えさせ、その後、実際に就職活動をする上でのポイントや具体的な模擬面接指導、求人票の見方などを指導した。対象者のニーズや時間などによりカリキュラムの構築が可能である。

実際に、講座の受講前と受講後で同内容のアンケートを実施し、比較分析した結果から講座を検証した。支援対象者本人の意識レベルでの回答であるが、自己理解や仕事理解については、受講前より受講後のほうが理解度は深まっており、コミュニケーションの不安についても改善され、また、仕事(就労)意欲は向上する結果となり、一定の評価を得られるプログラムとなった。

③今後の活用

今後とも自立支援講座(無業者対策)に関しては、若者自立塾や若者サポートステーションと連携を取り、継続的に実施する。また、各教育委員会とも連携して、公民館等でのニート支援講座の実施等に協力していく。

予防講座プログラムに関しては、高等学校との連携を強化し、適当な時期に各高校で実施できるような体制を構築する。また、高校側からの要望があれば、プログラム及びワークシートの提供を実施して行く。

④次年度以降における課題・展開

講座参加者に対して実際にジョブトレーニングを長期にわたり実施できる企業との連携が必要となる。また、行政各部署の連携や協力・理解がかなり必要である。

3. 事業の実施に関する項目

①自立支援アドバイザー

●対象者の状況

対象者については、若者自立塾の第7期生及び第8期生の塾生及び沖縄県立高等学校就学支援センター(不登校・引きこもり・中途退学者の就学を支援する)の学生が中心でした。対象者の年齢も16歳～35歳と幅が広く、これまでの生活環境もさまざまでした。また、「働く」ことへの不安を感じている者や「働き続ける」ことに不安を感じている者、投薬・通院しているもの、アルコール中毒、パニック障害、接触障害、リストカットなどさまざまな問題を抱えている状況です。対象者全員に共通しているのは、みんな素直でまじめだということです。また、EQI検査の結果から言えることは、自分より他人に対する意識が強く、周囲へのアンテナも非常に張っている。ただし受け取った情報を自分に非があるように受け止めてしまう傾向も見られ、失敗や嫌な思いを引きずりやすい面を持っている。またそのためか、不確かな状況に対して否定的になったり、不安を抱え易かったりする部分も見られる。全体的に自信はないが、前に進もう！進まなくては！とする姿勢があり、自分なりのやり方に対するこだわりもあるのだが、それを口にするのは少ない。そのような中でも、対象者については、自分の想いや気持ちについても表現することが少ないため、本人のことが周囲に伝わりにくいことがある。伝わらない分、自分から働きかけるか？と言うと、それも控えめである。

●方法及びカウンセリング回数

若者自立塾の対象者に関しては、自立支援講座実施時にカウンセリングを実施し、その後、若者自立塾終了後の就職支援に向けてのカウンセリングにつなげていった。対面での対象者の実人数は15名(カウンセリング件数延べ43件)である。その他、時間的な制約や、対象者の状況(県外出身者など)などにより電話でのカウンセリングなども多く、現在も進行中である。

●カウンセリング結果

各々問題を抱えている支援対象者が多く、全員が自立・就職できる状況ではないものの、今回実施した自立支援講座やカウンセリングを通し、前向きな意識になってくれたと感じています。また、実際に就職した対象者も数名います。

②カリキュラムの開発

- 第1回<ニートへの>自立支援講座（2007/10/1～10/5 5日間）受講生:8名
10/1～10/3 自己理解・職業理解・コミュニケーション・就職支援を中心とした座学
10/4～10/5 専門学校における職業体験実習
職業選択の幅をひろげるため 4校(福祉保育系、IT情報系、観光系、動物系)
- 第2回<ニートへの>自立支援講座（2008/1/21～1/25 5日間）受講生:9名
1/21～1/23 自己理解・仕事理解・コミュニケーション・就職支援を中心として座学
1/24～1/25 専門学校における職業体験実習
職業選択の幅をひろげるため 3校4分野(福祉系、保育系、IT系、環境系)
- 第1回進路支援講座（2007/10/26 1日間）受講生:21名 県高等学校就学支援センター
社会人3名の「生き方」を聞く、シンポジウム
- 第2回進路支援講座（2007/12/26 1日間）受講生:17名
発声練習、マナー講習、面接練習、金銭基礎教育
- 専門学校教職員向けキャリア/ビジネス教育研修会（2007/8/20～8/22 3日間）受講生:25名
8/20 コミュニケーション力の訓練による対人関係の再確立
8/21 仕事の具体的プロセス体験と社会参加意識の醸成
8/22 ケーススタディ
- CSM(キャリア・サポート・マインド)養成講座（2007/11/17～11/19 3日間）受講生:13名
11/17 若者を受け止める/仕事、キャリア開発
11/18 キャリア・サポートのためのコミュニケーションスキル/自己理解の促進
11/19 職業理解とキャリア・ガイダンス/キャリア・サポートの姿
- 第3回進路支援講座（2008/2/5～2/6 2日間）石川高校5名
2/5 金銭基礎教育、模擬面接及び求人票の見方
2/6 職業カード分類、就職活動支援
- 高等学校教職員向けキャリア教育支援講座（2008/2/8 1日間）参加者:8名
ワーク:「学生を受け止める」、沖縄県内の雇用の現状、キャリア教育のためのツール紹介
- 「親ゼミナール」親からはじめるわが子の支援（2008/2/9 1日間）参加者:11名
- 第4回進路支援講座（2008/2/18）尚学院国際ビジネスアカデミー 参加者:20名
- 支援者研究会（2008/2/10）参加者:45名

■参加者の反応

- ・自立支援講座に関しては、講座の受講前及び受講後に同じ内容のアンケート実施し、講座受講における意識の変化等を比較している。また、各講座ともアンケート実施し、要望や反省点を次回講座等へ反映するようにしている。
- ・各講座とも受講者からは、大変良い、次回も受講したいとの評価を受けております。
- ・事業報告書に各講座のアンケートの集計は掲載いたします。

③実証講座

④その他

「ニート」という言葉を使わないように心がけた。また、本人も家族もニートという意識も無く、ニートと自体の理解もない。参加者の募集や告知に関しては、「コミュニケーションに自信のない人」とか「就職しても長続きしない人」とか「人間関係に問題を抱えている人」などと対象者がわかりやすいように工夫した。

また、発声練習や笑顔の練習を取り入れたことにより、顔の表情がぜんぜん変わり、講座のしやすい環境づくりを心がけた。